

## オフンドウサマ

紙製の一对の男女の人形を水引で結び、普段は赤い布をかけた箱に納めて、便所に祀ります。便所の神様として親しまれました。別名を「オヒナコ」ともよばれます。



祀られている様子

## 雛箱

雛箱は棟上げの際、棟梁が棟裏や柱の上部に打ち付ける家屋守護の神様です。雛箱には家が傾かないように家内安全、子孫繁栄の気持ちを託しました。箱の中には「オヒナサマ」とよばれる紙でできた男女の人形とともに、櫛や簪などを入れました。はさみや針といった裁縫道具や女性の髪の毛が入っていることもありました。



### コラム① ~なぜ「桃の節句」や「菖蒲の節句」とよぶのか~

桃の節句にあたる「上巳」は「3月最初の巳の日」を指す言葉であり、ちょうど桃の花がほころぶ季節として日本では桃の節句とよぶようになりました。桃の花は不老長寿や子孫繁栄、邪気を祓うものとして禊祓いの場面でよく用いられてきました。

「端午」は「5月(午の月)の最初(端)の午の日」を指す言葉でしたが、その後、5月5日に固定され、現在では「子どもの日」としても親しまれています。端午の節句に取り上げられる菖蒲の花は、葉の形が刀に似ていることや香りの強さから邪気を祓う植物と考えられました。また、「ショウブ」は勝ち負けの「勝負」や武勇を重んじる意味の「尚武」に通じる音だともされているため、菖蒲の節句とよぶようになりました。

## II 飾る ~人形を中心に~

### 1. 雛飾り

現在のような雛祭りが確立するのは意外に新しく、江戸時代も半ばを過ぎる18世紀中頃とされます。

雛人形の形式は、大別して「立雛」と「坐雛(内裏雛)」に分類されます。

最古の形式である立雛は、衣裳が紙で作られていることから紙雛とよばれることもあります。男雛は手を左右に開き、ヒトガタのような姿をしています。男女一对の立ち姿をかたどっており、屏風や雛段に立てかける以外に雛本体を立たせることが困難でした。江戸初期は立雛だけを飾っていましたが、やがて雛飾りが盛んになると、飾りやすく安定感のある坐雛(内裏雛)とともに飾り、のちには後者のみ为中心となります。次第に、雛飾りは高価なものを競うようになり、大人志向も取り入れられていきました。

### 享保雛

元禄・享保・寛政頃にかけて流行した雛人形です。その特徴は髪が植え込みとなり、目や口が立体的になっているなど、これ以前の寛永雛には見られない比較的大きく豪華な人形であることです。

男雛は太刀と笏が紛失しているものの、享保雛らしく両袖が張っています。女雛は宝冠を付け、膝のあたりが丸くふっくらしています。当時は段飾りではなく、緋毛氈ひもげんに平飾りを行いました。





## 貝合わせ

貝合わせに使用されるハマグリは、同じように見えても左貝(出し貝)と右貝(地貝)で合うものが一組みしかないことから、貞操的な考えと結びつき、夫婦和合の象徴として雛段に飾られました。



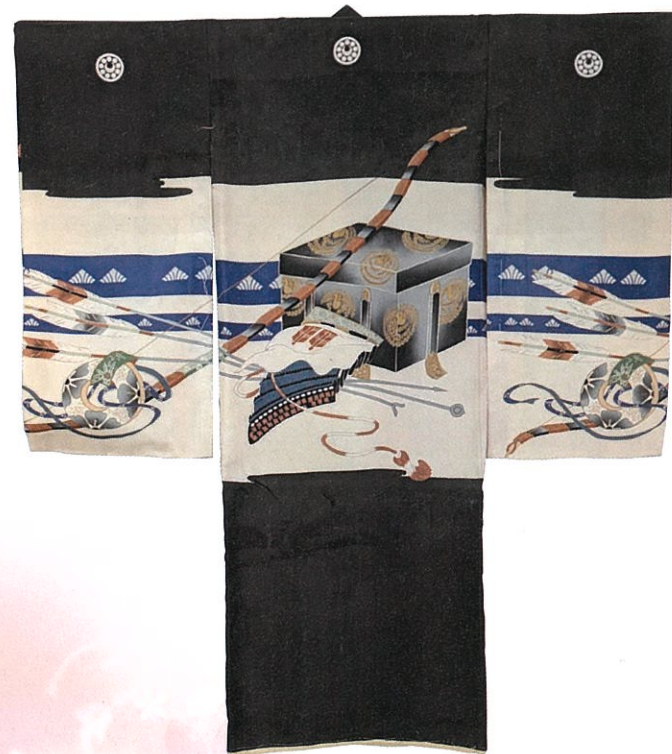
## 婚礼衣裳

明治時代初期の打掛と伝えられています。  
鶴や亀、松や梅などのおめでたい刺繍があしらわれています。



## 初節句の祝い衣裳

佐沼亘理家に伝わる子ども用の晴れ着です。  
家紋や魔除けの破魔矢があしらわれています。



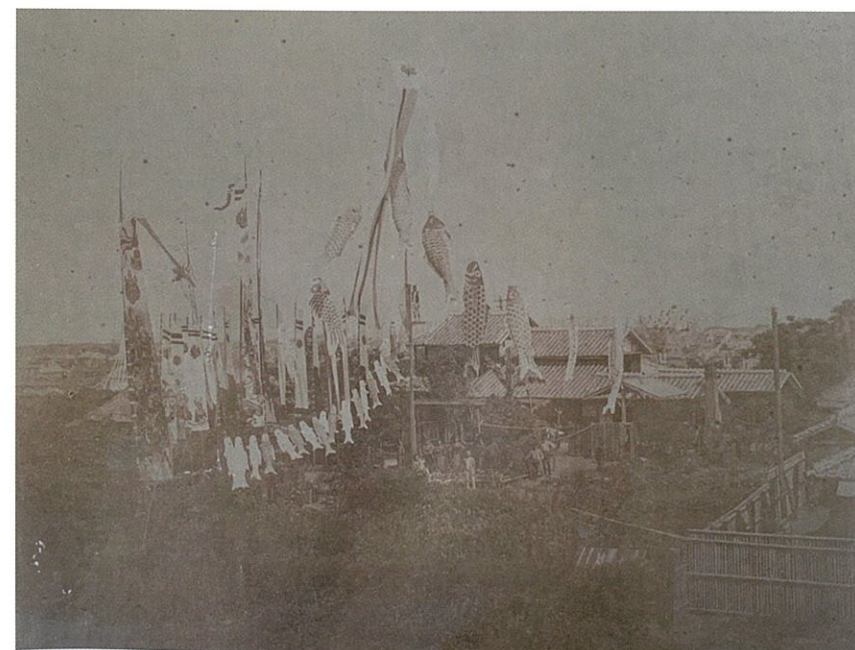
佐沼亘理家の桃の節句を撮影したものです。三段飾りで飾られています。

古今雛を中心に御所人形や桜と橘などを飾り、お菓子や白酒を備えたシンプルな飾りになっています。



佐沼亘理家の桃の節句を撮影したもので、こちらは五段飾りとなっています。

三段飾りとは男雛と女雛の位置を変えて飾られています。内裏雛2対と隨身、三人官女、五人囃子などが並び、雛菓子もいくつか添えられて華やかに飾り付けられています。



筑後(現:福岡県)にあった三池製作所の所長として尽力した横山家の菖蒲の節句の様子を撮影したものです。

武者幟や吹き流し、鯉のぼりが空高くたくさん上げられ、賑やかな祝いとなっています。

明治33年(1900)  
登米伊達文庫蔵